

令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (広島県)

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和2年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は2万3,400haで、前年産に比べ200ha（1%）の減少が見込まれます。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は2万2,000haと見込まれます。

2 作柄概況

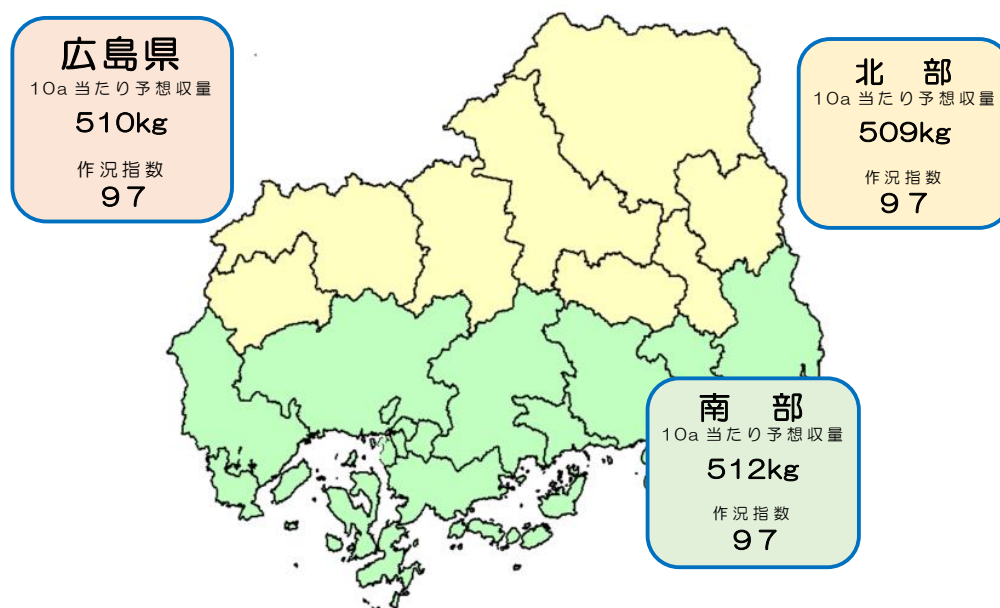
穂数は、田植期以降高温・多照で推移していたものの7月以降低温・日照不足の影響より分けつが抑制されたことから、「やや少ない」となりました。1穂当たりもみ数は、幼穂形成期に当たる7月の日照時間が少なかったものの、8月以降高温、多照に経過したことから「やや多い」となりました。この結果、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は「平年並み」となりました。

登熟は、7月中旬から下旬にかけての日照不足等により「やや不良」と見込まれます。

以上のことから、広島県の10a当たり予想収量は510kgと見込まれ、前年産に比べ11kgの増加が見込まれます。作柄表示地帯別では、南部が512kg（前年産に比べ15kg増加）、北部が509kg（同8kg増加）と見込まれます。

また、農家等が使用しているふるい目幅（広島県1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は97（やや不良）と見込まれます。作柄表示地帯別では、南部、北部ともに97（やや不良）と見込まれます。

図 作柄表示地帯別10a当たり予想収量及び作況指数（9月15日現在）

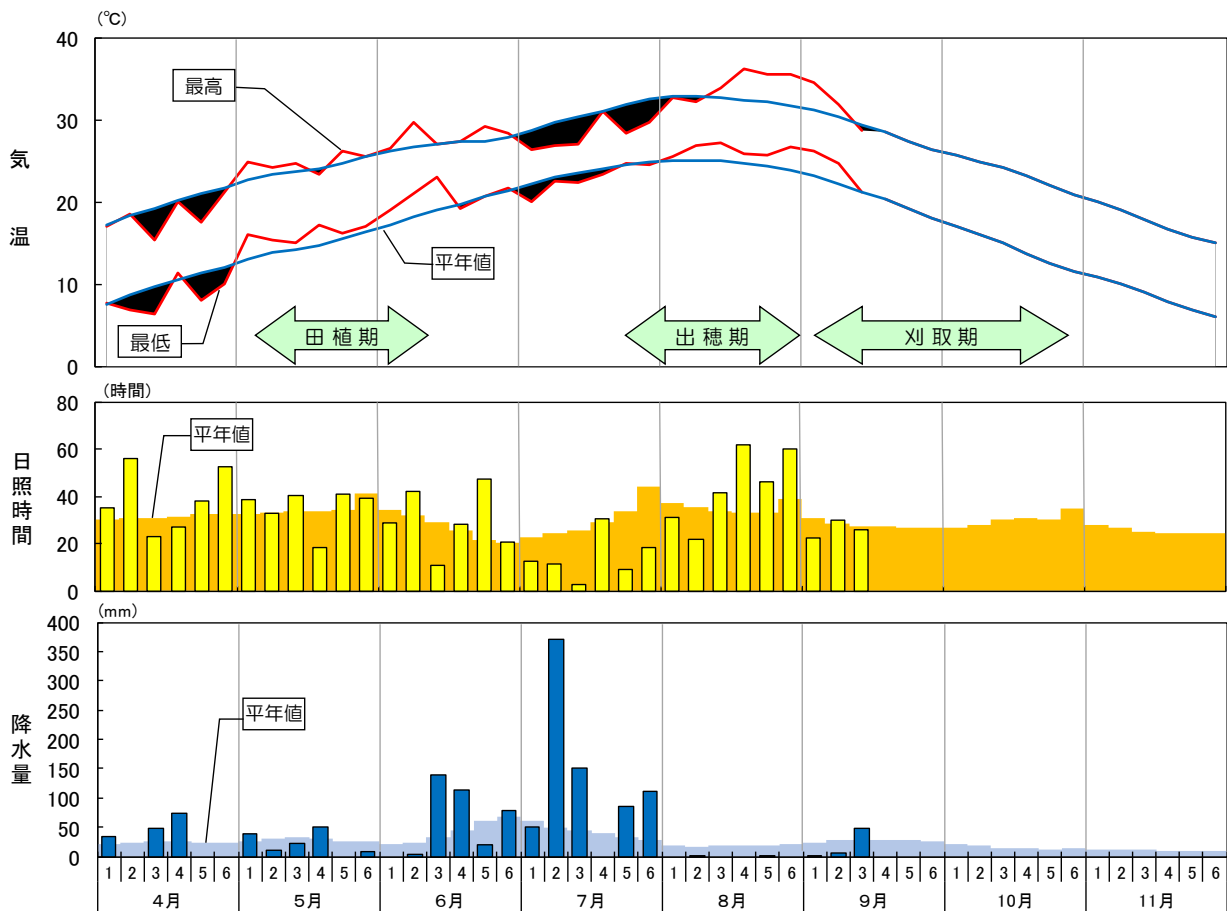


3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、11万2,200tと見込まれます。

◎半旬別気象図

広島市の気象図



気象庁「アメダス」を基に作成

本資料は、「令和2年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（中国地域・四国地域）」の補足資料です。統計表や調査の概要等は、同資料をご覧ください。

お問合せ先

中国四国農政局 広島県拠点 統計チーム 担当：黄金、^{ふくがうち}福垣内

電話：082-228-5847 FAX：082-228-5834